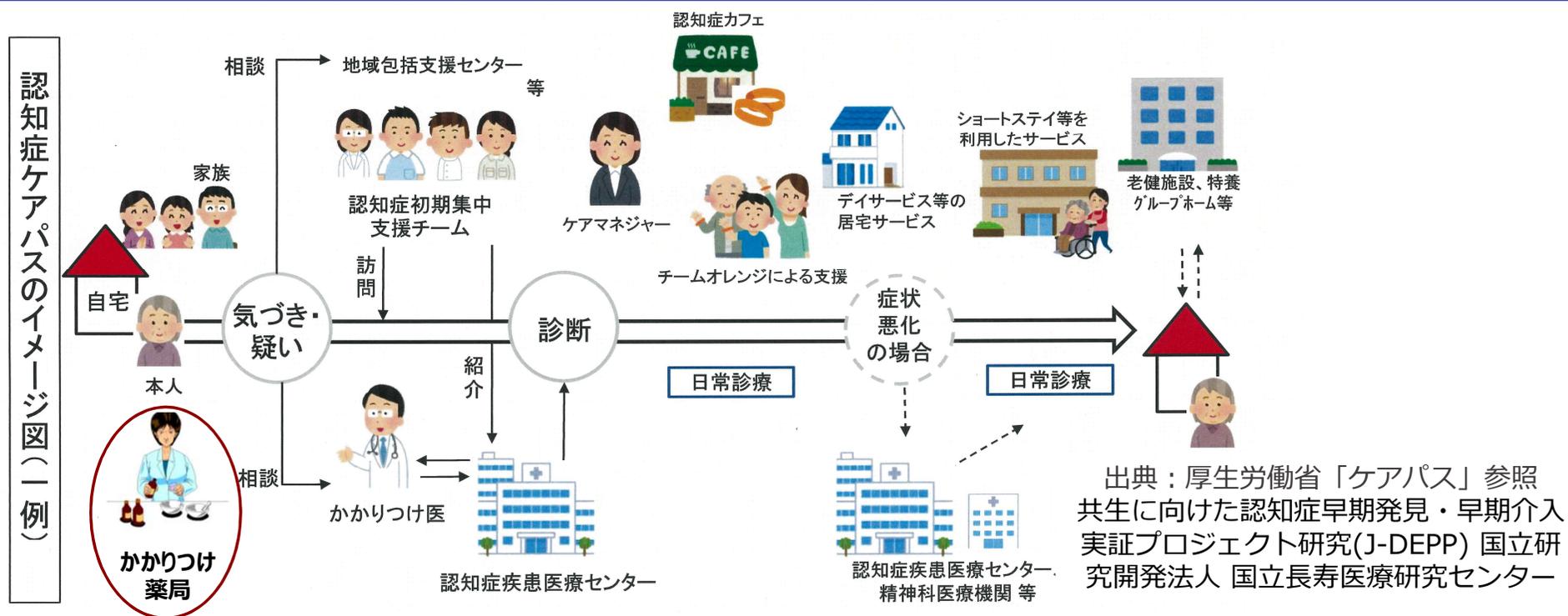


地域につなげる①（認知症ケアパス）

- 認知症ケアパス ⇒ 認知症発症予防から人生の最終段階まで、認知症の容態に応じ、相談先や、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければいいのか、これらの流れをあらかじめ標準的に示したもの。
地域の高齢者等の保健医療・介護等に関する総合相談窓口である地域包括支援センター及び認知症疾患医療センターを含めた認知症に関する相談体制を地域ごとに整備し、ホームページ等を活用した窓口へのアクセス手段についても総合的に整備する。また、その際に「認知症ケアパス」を積極的に活用し、認知症に関する基礎的な情報とともに、具体的な相談先や受診先の利用方法等が明確に伝わるようにする。

～認知症施策推進大綱（抜粋）～ 【K P I / 目標】市町村における「認知症ケアパス」作成率100



地域につなげる②（窓口）

「物忘れが気になる」「日常生活での変化」が気になった場合どこに相談したらよieldろう？これが、家族、介護者にとって重要な悩み。

薬局に相談

かかりつけ医
認知症疾患医療センター
認知症専門医療機関

薬局に相談

区市町村の窓口（各地域に担当窓口がある）
地域包括支援センター
保健所、保健センター、精神保健福祉センター

地域の受け皿のリソースを把握する。地域によって大きく違う。

（例）東京都認知症ナビ

<https://www.ninchishounavi.metro.tokyo.lg.jp/>

「知って安心認知症」パンフレット

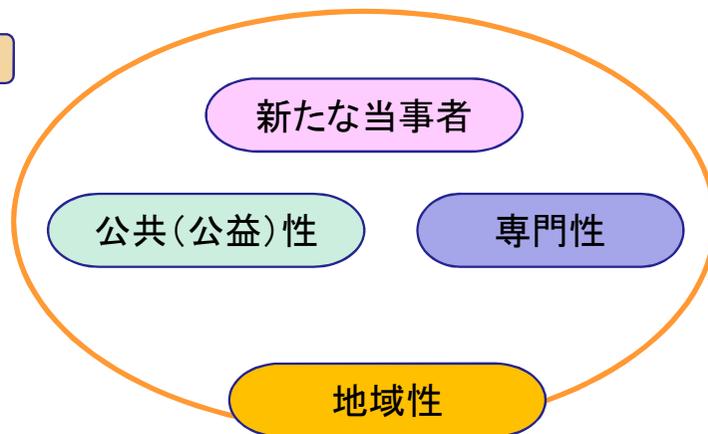
地域につなげる窓口③（認知症カフェ）

- 認知症カフェは、オランダで始まったアルツハイマーカフェを源流として世界各国に様々な形で広がった。日本では、2012年の認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）にて初めて明記され、続く認知症施策推進総合戦略（以下、新オレンジプラン）では、全市町村設置を目指すことが示された。
「認知症施策推進大綱：KPI/目標」認知症カフェを全市町村に普及

認知症カフェには認知症の人、そして家族が専門的なサポートを受けることができなかつた空白の期間を 満たしていく役割がある。地域の人々が認知症のことを理解し受け入れることを促進するための アプローチでもある。「認知症になっても安心して暮らせる地域」をそのカフェの中で作りだし、それが地域全体に波紋のように広がることを目指している。認知症カフェの目的は次のように考えられる。

- 情緒的なサポートが提供されることで、地域社会からの孤立を防ぎ、認知症の人と介護者の心理的負担の 軽減に寄与する
- 手段や情動的なサポートが提供されることで、適切なサービスや専門職と早期に繋がり、介護負担軽減や 適切な支援により、地域や在宅生活の安定につながる。

オレンジカフェの特徴

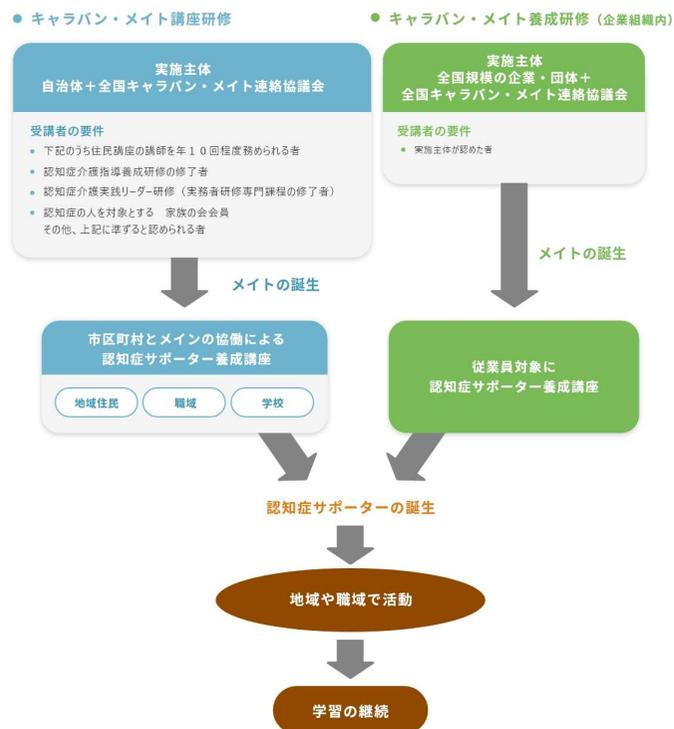


出典：厚生労働省「よくわかる！地域が広がる認知症カフェ」

地域につなげる窓口④（認知症サポーター、キャラバン）

● 認知症サポーター、キャラバン

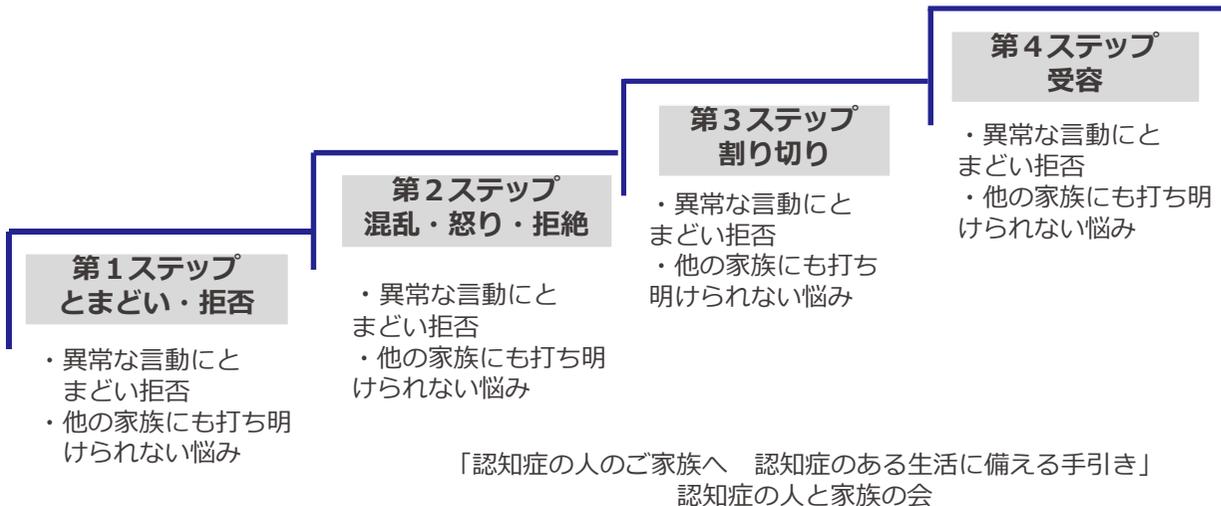
全国キャラバン・メイト連絡協議会では、都道府県、市区町村など自治体と全国規模の企業・団体等と協催で認知症サポーター養成講座の講師役（キャラバン・メイト）を養成する。養成されたキャラバン・メイトは自治体事務局等と協働して「認知症サポーター養成講座」を開催する。「認知症サポーター」は何か特別なことをする人ではない。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」。その上で、自分のできる範囲でサポーターとして活動している。認知症サポーター養成講座で得た知識を生かし、近所で気になることがあればさりげなく見守る、まちなかで困っている人がいたら手助けすることも立派な活動の一つ。



地域につなげる窓口⑤（認知症家族会）

- 認知症患者会「認知症の人と家族の会」とは、京都で発足し、全国47都道府県に支部がある。認知症の人および家族等の交流を通して、認知症の理解を深め、認知症の人とその家族への援助と福祉の向上を図ることを目的としている
- すべての都道府県に支部があり、11,000名を超える家族・本人・専門職が会員となり、「つどい」「会報」「電話相談」を三本柱とした活動を行っています。
- 自分たちの悩みをうちあけ、話しあう「つどい」を全国で開催している。
つどいに参加することで「自分は一人じゃない、仲間がいる」と知ることが出来る。介護する家族だけでなく、認知症の人本人、男性介護者、若年性認知症の家族、看取り終えた人のつどいなど様々なつどいが行われている。
介護者・本人が交流している。全国で年間4,000回以上開催され、5万人が参加している。

出典：「認知症の人の家族がたどる心理変化」
(杉山孝博医師)



認知症の人の家族が望む支援の基本

- ・まずはただ、家族の話を聞いてほしい。
- ・家族が困惑した時にこそ安心できるようにサービスが支えてほしい
- ・家族が認知症の人への思いを最大限に尊重されたうえで、家族自身の生活や人生が認知症の人の介護を経て豊かになるように支援してほしい。
- ・認知症とともに生きるということを家族がわかるように支援してほしい。
- ・診断直後からのきめ細かな支援として認知症とともに生きるオン人や介護家族同士をつないでほしい。
- ・認知症の人と家族の生活を守るための経済的な支援が欲しい。
- ・多様な介護状況に合わせた個別支援をしてほしい。

認知症の人の家族が望む支援の基本

- ・家族の頑張りを受けてほしい。
- ・ケアプランは家族支援の要素も入れて作ってほしい。
- ・ケアマネージャーだけで抱え込まないために家族を含めた多職種連携をしてほしい。